誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

## Re Start

福祉課（内線222）

### Vol.34　230の思いが紡ぐ未来

土岐保護区保護司会では、更生保護への理解を広めるため、市内の小中学生に「第76回“社会を明るくする運動”作文コンテスト」（法務省主催）への参加を呼びかけました。

寄せられた230もの作文には、「『大丈夫？』という声かけ」や「日常の思いやりの心」といった身近なテーマから、「人生の転換点」という個人の心模様、「差別問題」のような社会的なテーマまで、幅広い視点で子どもたちの思いがつづられていました。若者が自らの言葉で更生保護に向き合う姿勢は、とても頼もしく感じられます。

犯罪や非行を防ぎ、誰もが安心して暮らせる社会を築くためには、子どもから大人まで、地域全体で温かく支え合う意識を育てることが欠かせません。市民の皆さん一人ひとりが、立ち直りを目指す方の歩みを受け止め、そっと見守る支え手となってくださることを願っています。

明るい地域社会の実現に向け、ともに歩んでいきましょう。

人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

## 人権のまど

市民活動課（内線357）

### ゲノム（遺伝情報）と人権

法務省が掲げる人権の重点目標に「ゲノム情報に関する偏見や差別の解消」が、近年新たに追加されたことを知っていますか？

技術の進歩で誰もが手軽に遺伝子解析を行えるようになった今、この究極の個人情報をどう守るかが現代の新しい人権課題になっています。

もしも「病気の可能性」や「生まれ持った体質」といった遺伝情報が、就職や保険加入、結婚などの岐路で不当に扱われれば、個人の尊厳を脅かす「遺伝差別」となります。科学の発展は人間の可能性を広げるものであり、新たな格差や不利益を生む道具となってはいけません。

DNAの配列という自分で選んだわけではない遺伝子の情報で、誰かが損をしたり傷付いたりする社会にしないため、科学の力を上手に暮らしに取り入れつつ、お互いのプライバシーを大切に守り合う。そんな当たり前の優しさや倫理観を持つことが、私たちにできる第一歩ですね。

12月4日～10日は「人権週間」です。
身近なことから人権を考えてみませんか。



土岐商写真部×広報とき

## 土岐の写真を撮り隊 Vol.42

### 「秋の彩り」

静かに咲く彼岸花が、深まる秋をそっと彩っています。細く伸びた花びらが、風に揺られる姿は幻想的です。何気ない日常の中にも、秋ならではの美しさが広がっています。

撮影班　二年生：東山紗和（とうやますずな）・林優名（ゆな）